

令和元年度第1回愛知県外来種調査検討会議事概要

1 座長、座長代理の指名

座長は、互選により芹沢委員が選出された。

座長代理は、芹沢座長の指名により谷口委員が務めることとなった。

2 議事1 条例公表種等（補足調査）の調査計画について

議事2 ブルーデータブックあいち2012の改定に向けた外来種の調査計画について

- ・資料2、3により調査計画について説明。（事務局）
- ・条例公表種等（補足調査）の調査計画については意見なし。（合意事項）
- ・移入種リストには、分布情報を付けることになるか。植物は分布情報付きのグリーンデータブックがあるので対応できると思うが、動物は情報を整理する必要がある。分布情報を公表することに意味はあると思うが、リスト案の段階では種名のみとすることも検討してほしい。（委員）
- ・パブリックコメントの目的として、まず種の追加と確認がある。分布情報については、どのような場所で確認できたかということを書いていただくようなパブリックコメントのやり方もあると思う。分布情報を付けないということであれば、「発見情報についても御意見をお寄せ下さい」という形になるかと思う。（事務局）
- ・貝類の場合、学名しかないようなほとんど知られていない種をリストに挙げてパブリックコメントを行ってもあまり意味がないように思う。図があると分かりやすいと思う。（委員）
- ・最終的にブックに掲載するリストは分布情報を付けたものになるが、リスト案をどのような形で公表するのか検討したい。（事務局）
- ・外来種の場合、次から次へと新しい種が現れ、1年も経てば古くなってしまいうことは目に見えている。外来種問題で具体的な対策のために動いていただくのは県民なので、県民側として、どのようなスタイルでまとめてほしいとか、どのような情報を入れてほしいとか、そのような意見の方が重要ではないか。（委員）
- ・パブリックコメントの方法について、今いただいた意見を参考に事務局にて検討し、次回の検討会で案を示したい。（事務局）
- ・鳥類では、2012年版のリストに掲載されていた種の中で、現在では既に見られなくなった種が結構ある。その点は記載しておく必要があると思う。いつ頃愛知県からいなくなったかということも大体わかっている。（委員）
- ・過去に1回でも確認された種はリストに残すこととし、最近の動向は備考欄に記載することとする。（合意事項）
- ・ブルーデータブックの体裁について、ある程度検討しておく必要があると思う。維管束植物の場合は、グリーンデータブックで細かい区画を出しているのだから、紙面の制約さえなければ細かい区分を出すことができる。それ以外の分類群では、共通の形式でまとめるとなると17区画程度が限界かと思う。今のところ維管束植物以外は2012年版の体裁を踏襲することと

したい。(委員)

- ・2012年版では、動植物あわせて155種について1種1ページの解説を付けた。解説は、国の「生態系被害防止外来種リスト」に掲載されており、かつ、愛知県でも確認されている種及び2012年以降に愛知県で新たに確認された種については、記載する必要があると思う。

(委員)

- ・1種1ページの解説について、2012年版と同様に執筆者名を入れる際、担当者が変わって加筆訂正を行った場合が問題になる。また、故人の場合にはどうするかということも含めて検討が要る。(委員)
- ・ブルーデータブックの構成について、前半部(ハンドブック編)と後半部(データブック編)に切り離す場合、今まで前半部があるから後半部を書いていなかったという事項があれば指摘し、構成については次回の検討会で決めるということをお願いしたい。(委員)
- ・今日ご意見をいただいた、移入種リストの様式、ブルーデータブックの体裁等について、次回の検討会で事務局から案を示したい。(事務局)

2 議事3 その他

- ・参考資料1により条例に基づき公表する移入種の選定基準等について説明。(事務局)
- ・条例公表種のタカネマツムシソウについて、今の段階で最新の遺伝的な解析を行ったところ、タカネマツムシソウではなくマツムシソウだった。マツムシソウは、地理的な変化の傾向があり、明らかに山の上のものと下のものでは異なるが、どこかで線を引くことができない。このため、分類的には同じだということになったが、交雑するため余計厄介になったともいえる。条例公表種として残しておきたいが、扱いについては県と相談する。(委員)
- ・参考資料2により外来種対策における県の対応状況、県内の主な外来種の確認・防除状況について説明。(事務局)
- ・最近、名古屋市南部でクビアカツヤカミキリが確認されたとのことだが、樹種は何か。(委員)
- ・県民の方から寄せられた情報では、サクラとのこと。(事務局)
- ・コヒガタアシについて、4月に駆除を行ったとのことだが、5月下旬の大雨の後に別件で衣浦湾を見ていたところ、沖の方にコヒガタアシのような塊を見かけた。このような形で流れ、適した環境に流れ着くと定着するのだと思う。(委員)
- ・コヒガタアシはおそらく種子繁殖がかなりあると思っている。4月に駆除した後に小さな芽がたくさん出てきて、引っ張ってみたら下にモミが付いていた。モミが渡り鳥の足についてきた可能性もあり、そうなると対策は厳しい。(委員)
- ・今まで何年も経っているので、種子が流れるのであれば各地に拡散している可能性があると思う。矢作川など注意して見ているが、今のところ確認していない。(委員)
- ・今のところそれほど拡散していないが、半田でそれらしいものが見つかったという話を聞いた。干潟生態系に非常に影響を与える可能性が高いが、植物調査ではあまり干潟は見ないため、鳥類の方にも監視をしていただきたい。(委員)